

## 学校関係者評価〔令和2年度〕

		今後の課題
I	教育 教育 目的 理念	・2022年にカリキュラム改正があるため教育目標・教育目的は見直す。
II	教育 目標	・第5次カリキュラム改正で見直し、修正していく。現在の学生観との整合性があるか確認する。 ・カリキュラム改正に合わせ、教育目標を具体化し、用語の定義を決定し、教員間での統一をはかる
III	教育 課程 経営 者の 活動	・インシデント、アクシデントの分析を行っていないため、分析を行い、学生を知ることに繋げる必要がある。 ・教育課程の編成において、第5次カリキュラム改正で見直す。 ・科目配列は年度ごとに変わっているため、休学した学生は不利益になっている。科目配列が固定できるよう、考えていく必要がある。 ・教員が個々の目標をもち、掲げた目標にむかって学び、教員同士で評価し相互研鑽に努めていく必要がある。(聴講し評価しあう)
IV	教授・ 学習 評価 過程	・授業内容の重複に関しては、第5次カリキュラム改正で見直す必要がある。 ・シラバスは毎年1月に見直し、講師には毎回同封する。
V	経営 管理 過程	・アセスメントポリシーの検討と作成をする。 ・管理者が数年おきに交代するため、教育理念、教育目的を明示し、一貫性のある学校づくりを行っていく。 ・18歳人口の減少に伴い、学生確保が困難な状況である。 ・地域に向けての広報活動を行っていない。
VI	入学	・入学者減数のため広報など入学者増数の活動を継続して実施する必要がある。
VII	卒業 進路 学業	・就職先は把握しているが、就業状況までは把握できていない。
VIII	地域 国際 交流 社会	・地域との関連がないため、学生と地域の交流をはかる活動が必要である。
IX	研究	・研究に取り組む体制をつくる必要がある。